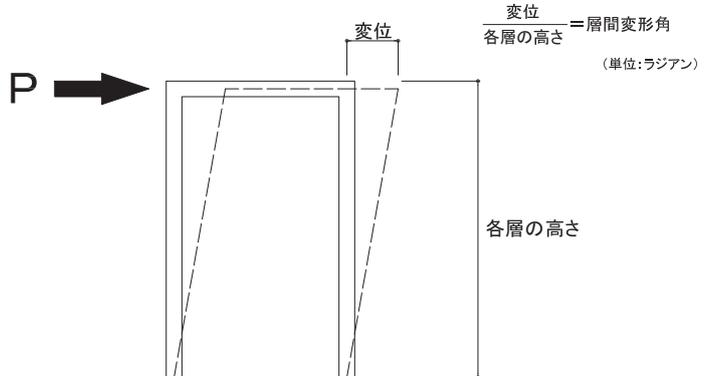


鉄骨下地組みの注意点（非耐火構造）

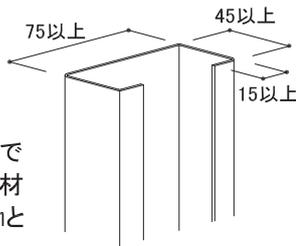
■基本事項

- 建物の層間変形角は1/120rad以下で設計してください。
(鉄骨造の層間変形角は原則として1/200radを超えないことと定められていますが、窯業系サイディングで仕上げた外壁構造は、1/120radまで緩和できます)
- COOLを直接柱や梁に取り付ける事は避け、胴縁を使用して胴縁にモエンを取り付けてください。



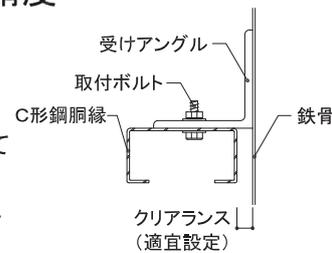
■鉄骨下地胴縁の形状寸法

- C形鋼胴縁の厚みは、1.6～2.3mmのものを使用してください。
- 断面寸法は75×45×15mm以上を使用してください。
- 準耐火構造および防火構造で鉛直荷重を負担する構造部材のC形鋼胴縁の厚みは2.3mmとしてください。



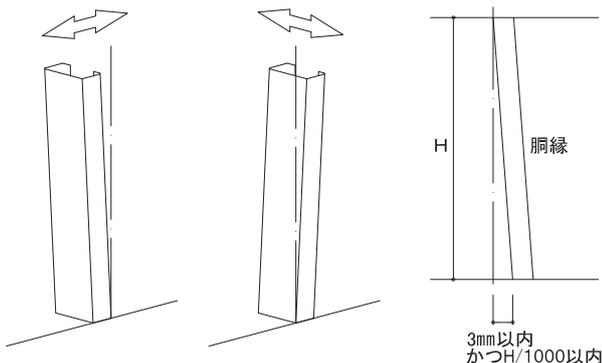
■下地組み寸法と精度

- C形鋼胴縁は受けアングル(ねこ)又は受けプレート(ねこ)を柱・梁に溶接し、受けアングルにボルト留めしてください。
(柱・梁に直接溶接することは避けてください)



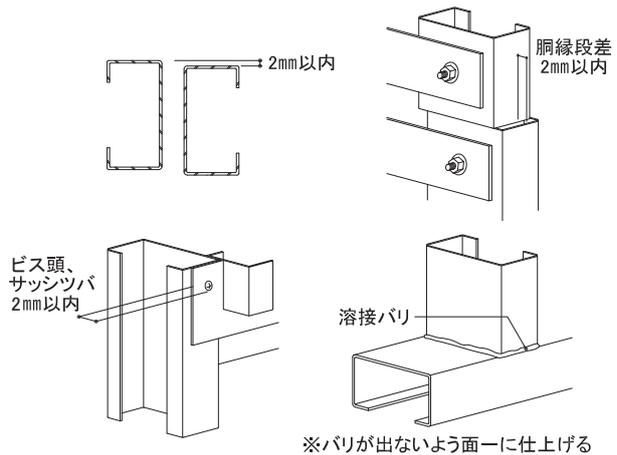
■C形鋼胴縁の立ち

- 3mm以内かつH/1000以内としてください。



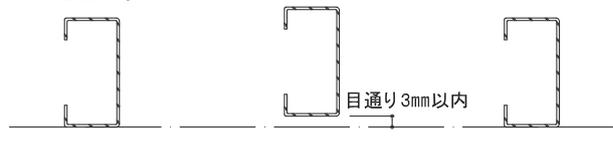
■不陸限界

- 下地ジョイント部のズレと、溶接部のバリ、ビス頭などによる不陸は、2mm以内としてください。



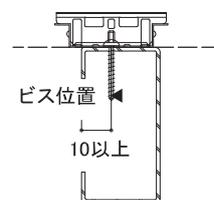
■C形鋼胴縁の目通り

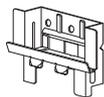
- C形鋼胴縁の立ちや通りのズレは、3mm以内としてください。



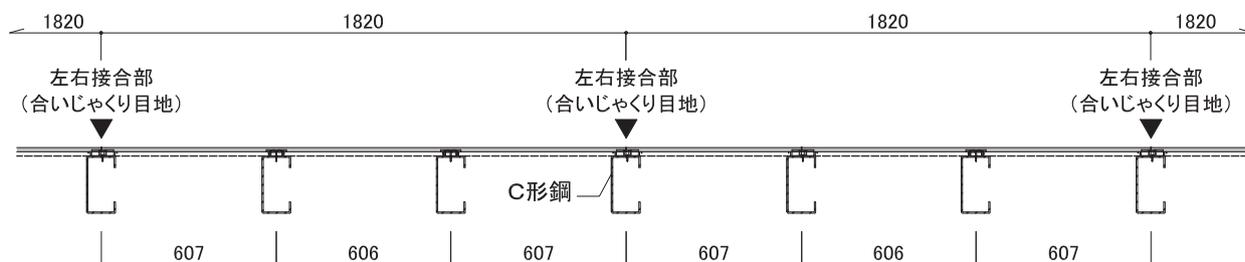
■C形鋼へのビス留め位置

- C形鋼胴縁へ留付金具を留め付けるビスは、がたつき防止のため、C形鋼端部より10mm程度以上離れた位置に留め付けてください。





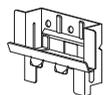
鉄骨下地組みの割り付けの注意点（非耐火構造）



●C形鋼の間隔は、COOLの長さに合わせて割り付けてください。

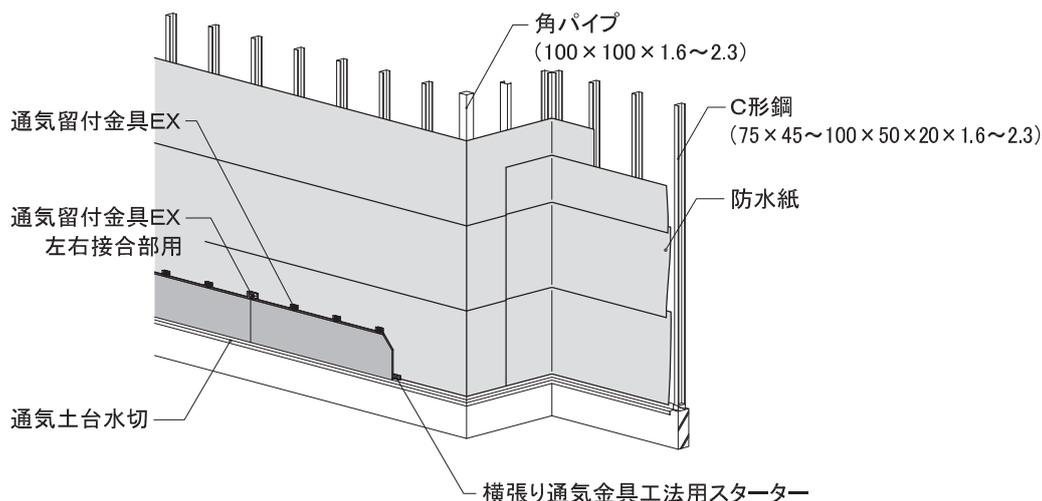
注) 1時間準耐火構造(QF060BE-9225)が必要な場合は、C形鋼間隔は606mm以下となります。

COOLの左右接合部はC形鋼をダブル組みとするなど調整してください。



基本構成図

■ 1.5尺×6尺品(四方合いじゃくり品)



下地施工基準

■ 躯体・サッシ

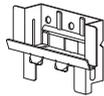
- 鉄骨胴縁は縦胴縁とし、610mm以下の間隔で組んでください。(1時間準耐火耐構造とする場合は606mm以下としてください。)
- 外壁面よりも外側に出るサッシを使用してください。

■ 防水工事

- 通気土台水切は水平に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工してください。
- 外壁防水措置は、原則として防水紙を使用してください。
- モエン透湿防水シートI・モエン透湿防水シートIIIまたはモエン遮熱シートII(一般地域限定)を使用してください。
- 開口部まわり、換気口まわり、配管まわりなど必要箇所の水切取り合い部、バルコニー天端などの部位には、純正防水テープを必ず使用してください。

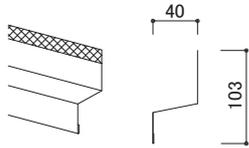
■ 胴縁下地組み

- C形鋼胴縁はC-75×45~100×50×20とし、厚みは1.6~2.3mmとしてください。
- 出隅部などはC形鋼ダブル抱き合わせまたは角形鋼管(□-100×100×1.6~2.3)としてください。
- 準耐火構造および防火構造で、鉛直荷重を負担する構造部材の胴縁の厚みは2.3mmとしてください。一般部は、厚み1.6mmとすることができます。



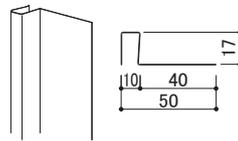
主要部材一覧表

■土台部



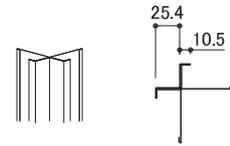
通気土台水切40
(FTD49**)
※または通気土台水切50(FTD59**)
**は色番号
L=3030mm

■接合部



片ハットジョイナー17
(FHK1117R)

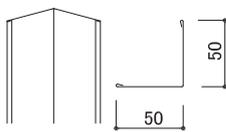
■出隅部



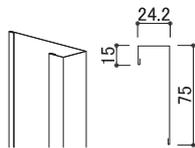
出隅16
(FD71**)

※メモリア・イルミオには本体と同質の出隅柱の設定もございません。
(一部のメモリアは除く)

■入隅部

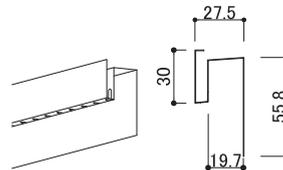


入隅50
(JR1900)



見切縁22
(FM22**)
**は色番号

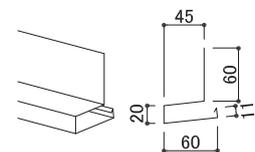
■軒天部



通気見切縁16
(FTM11**)
**は色番号

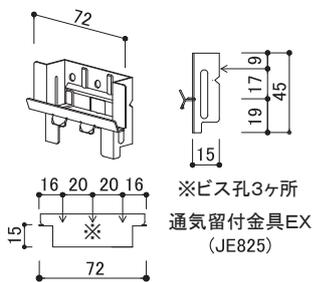
※18mm厚品は通気見切縁21を使用します。

■オーバースタック部

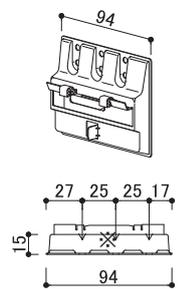


オーバースタック水切 鋼板製
(JOH72**)
**は色番号

■留め付け部 (矢印がビス孔の位置です)

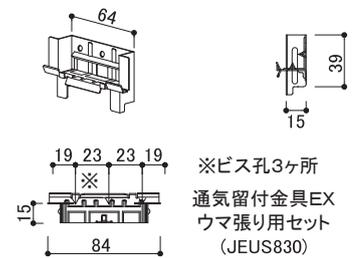


※ビス孔3ヶ所
通気留付金具EX
(JE825)



※ビス孔6ヶ所
通気留付金具EX左右接合部用
(JEJ835)

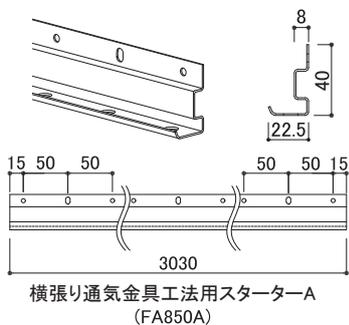
[ウマ張り施工時に使用]



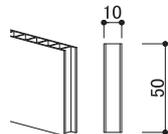
※ビス孔3ヶ所
通気留付金具EX
ウマ張り用セット
(JEUS830)

※メモリア・イルミオにおいて本体と同質の同質出隅で納める場合には、通気留付金具EX出隅用(JE825C)を使用します。

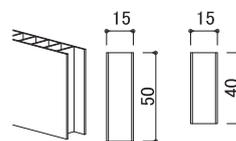
ウマ張り金具(本図)10個、
JEJ835 10個、
EPDMシール1シート/箱



横張り通気金具工法用スターターA
(FA850A)

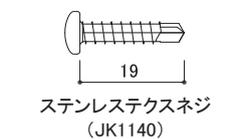


スペーサー10
(FS1010)
長さ:1,200mm

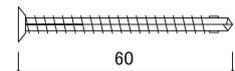


スペーサー15
(FS1015)
長さ:1,200mm

スペーサー15(ピースタイプ)
(FSP1015)
サイズ:40×40×15mm



ステンレスタックスネジ
(JK1140)



ステンレスリーマタックスネジ
(JK1250)

■その他

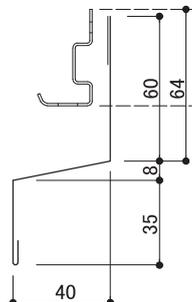
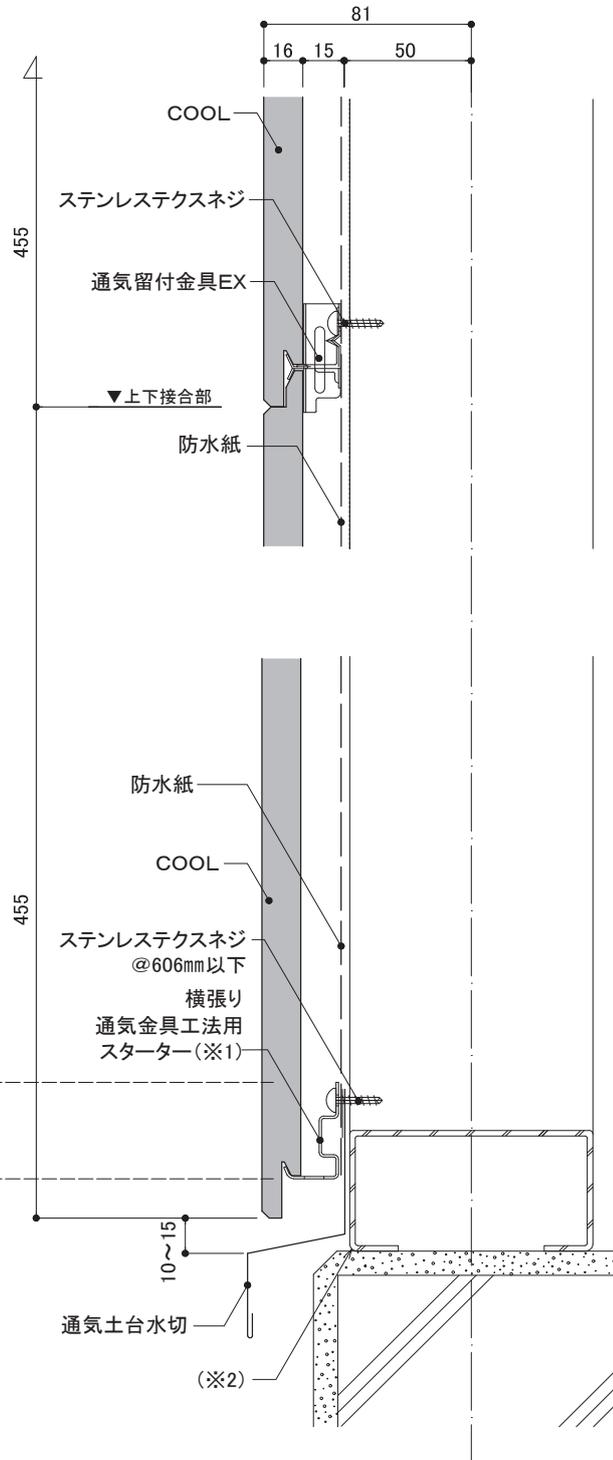
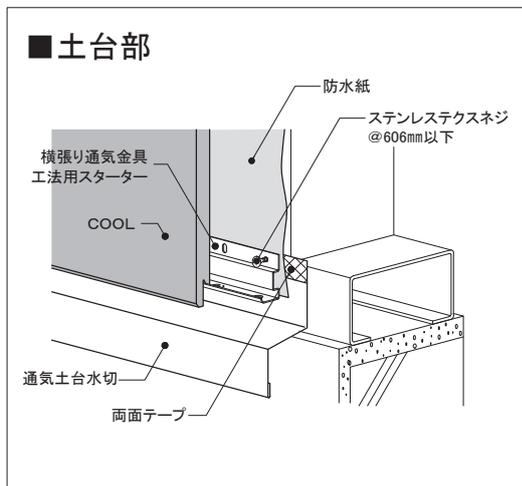
- モエン透湿防水シートⅠ(JF2000A)
- モエン透湿防水シートⅢ(JF4100A,JF4150A,JF4125A)
- モエン遮熱シートⅡ(JF7251A)(一般地域限定)
- 両面防水テープ(JF1511,JF1514,JF1515,JF1517,JF1518)

上下接合部

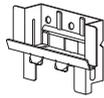
土台部

通気留付金具EX

通気土台水切+横張り通気金具工法用スターター

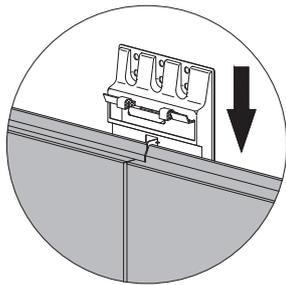
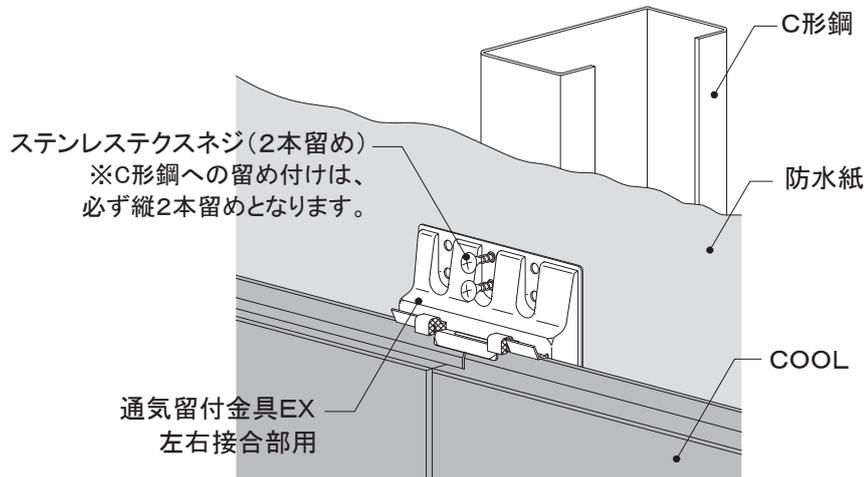


※1 土台部のC形鋼と縦下地のC形鋼との隙間に留意し、土台水切およびスターターの位置を調整してください。
 ※2 吹き上げ等による雨水浸入を防ぐため、止水処理が確実に行われていることを確認してください。
 注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

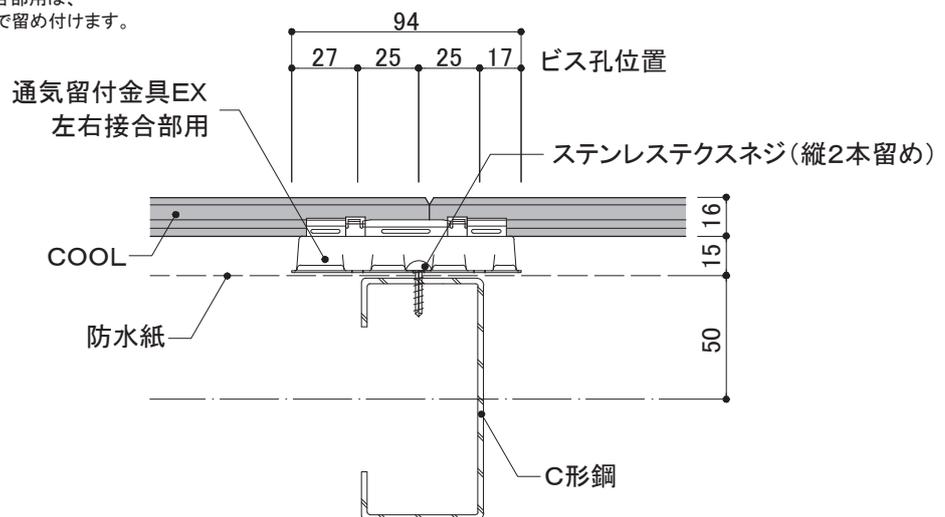


左右接合部

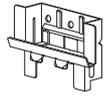
合いじゃくり



※通気留付金具EX左右接合部用は、
実の間に上から差し込んで留め付けます。



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

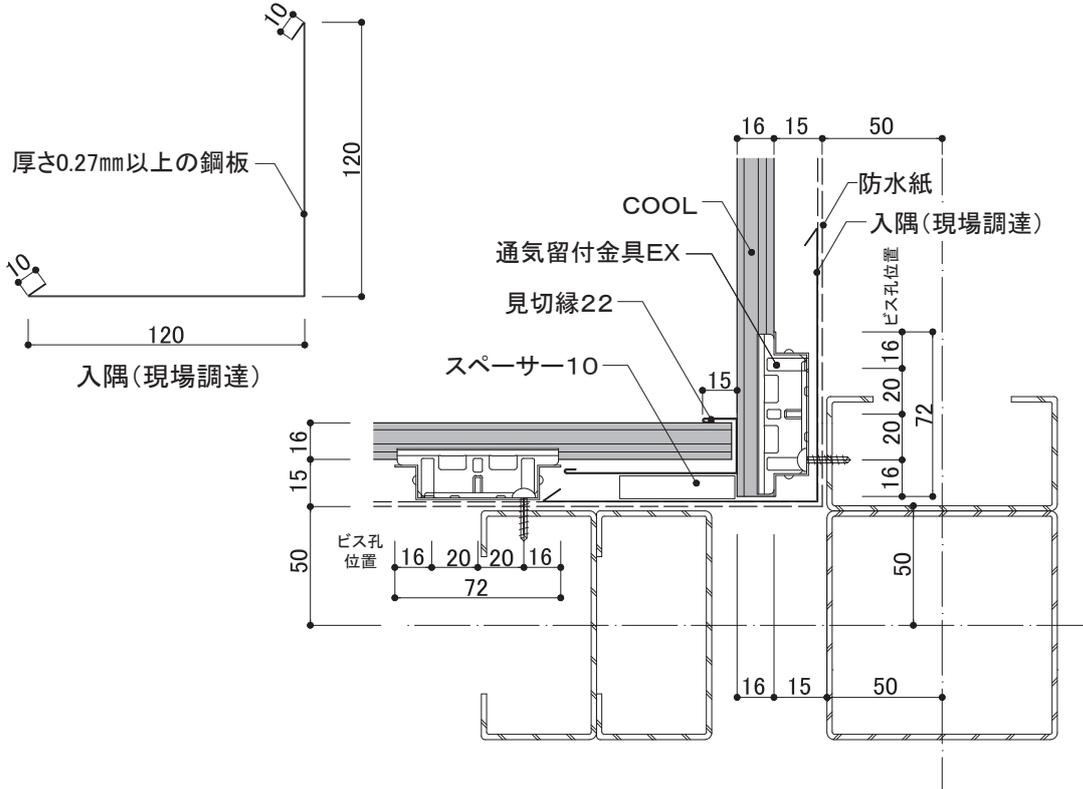


入隅部

見切縁22+入隅(現場調達)

見切縁22+シーリング+入隅50

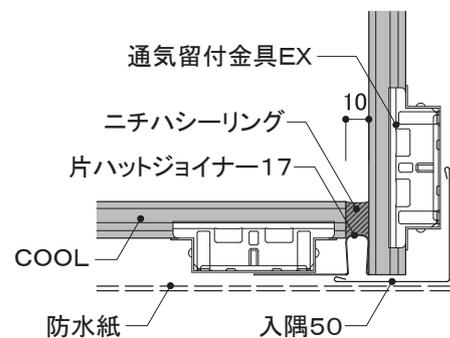
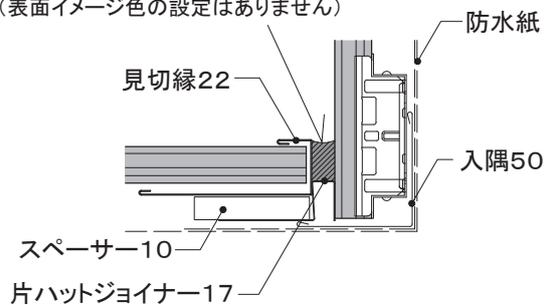
■入隅(現場調達)を使用する場合



■入隅(現場調達)を使用しない場合
[ミライア、一部のメモリア]

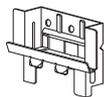
入隅50を使用し、見切縁22とCOOLの間に片ハットジョイナー17を入れ、ニチハシーリングを充填します。ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません)

[メモリア、イルミオ]



見切縁22や入隅とCOOLに隙間がある場合は、横ずれ防止のためにスペーサーを使用して隙間を埋めます。

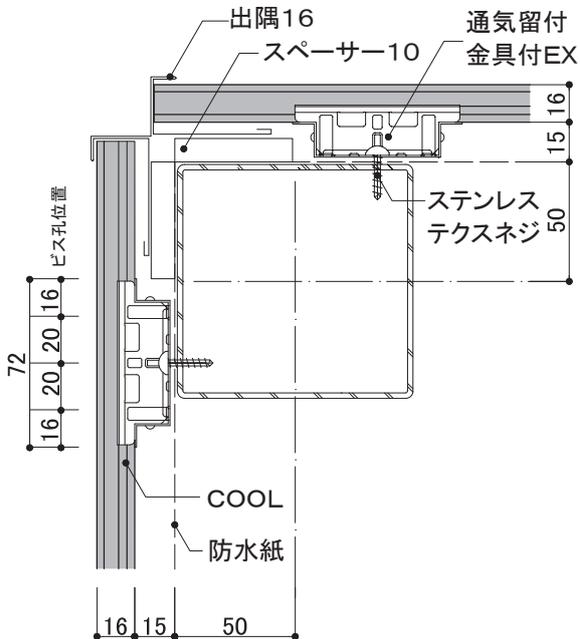
注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。



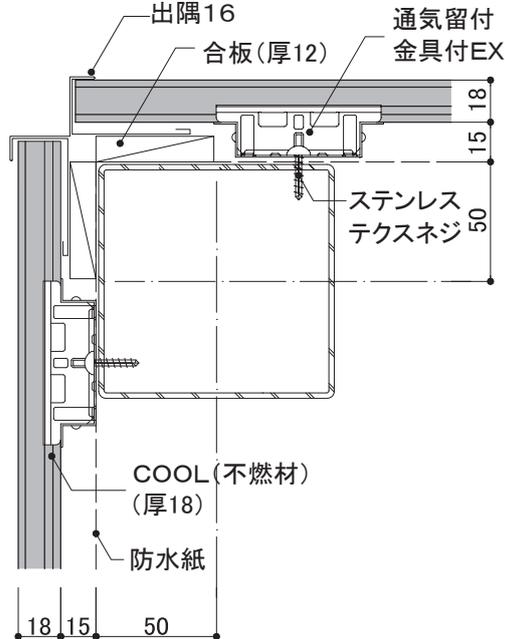
出隅部

出隅16

■COOL16の場合



■COOL18の場合

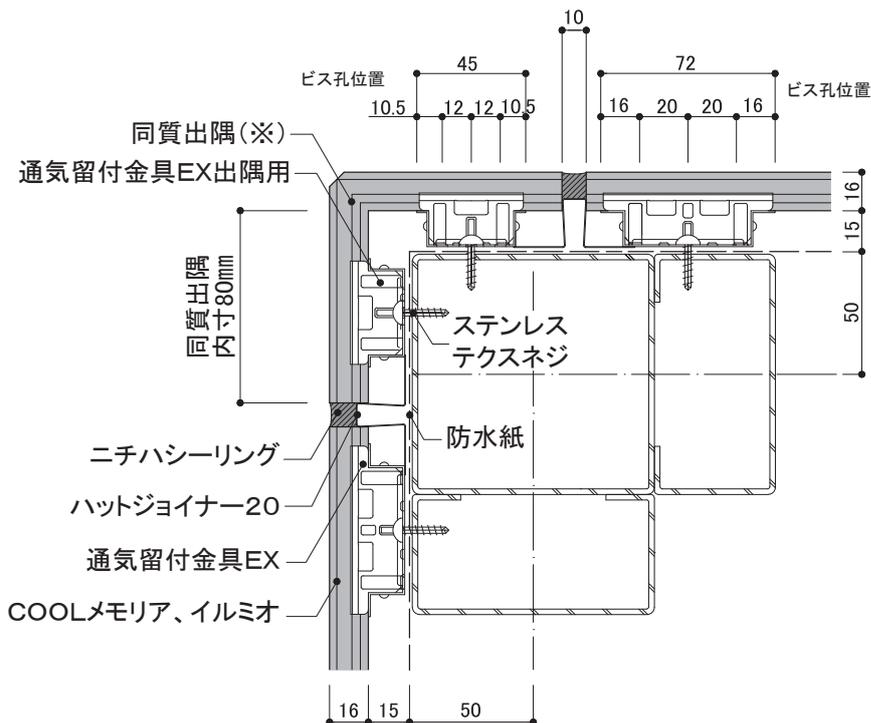


シーリングしない切断小口面にモエンシーラーを塗布します。乾燥後、再度モエンシーラーを塗布します。
出隅16とCOOLに隙間がある場合は、横ずれ防止のためにスペーサーを使用して隙間を埋める。

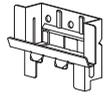
出隅部

同質出隅(メモリア[※]、イルミオ)

※一部のメモリアには同質出隅の設定がありません。



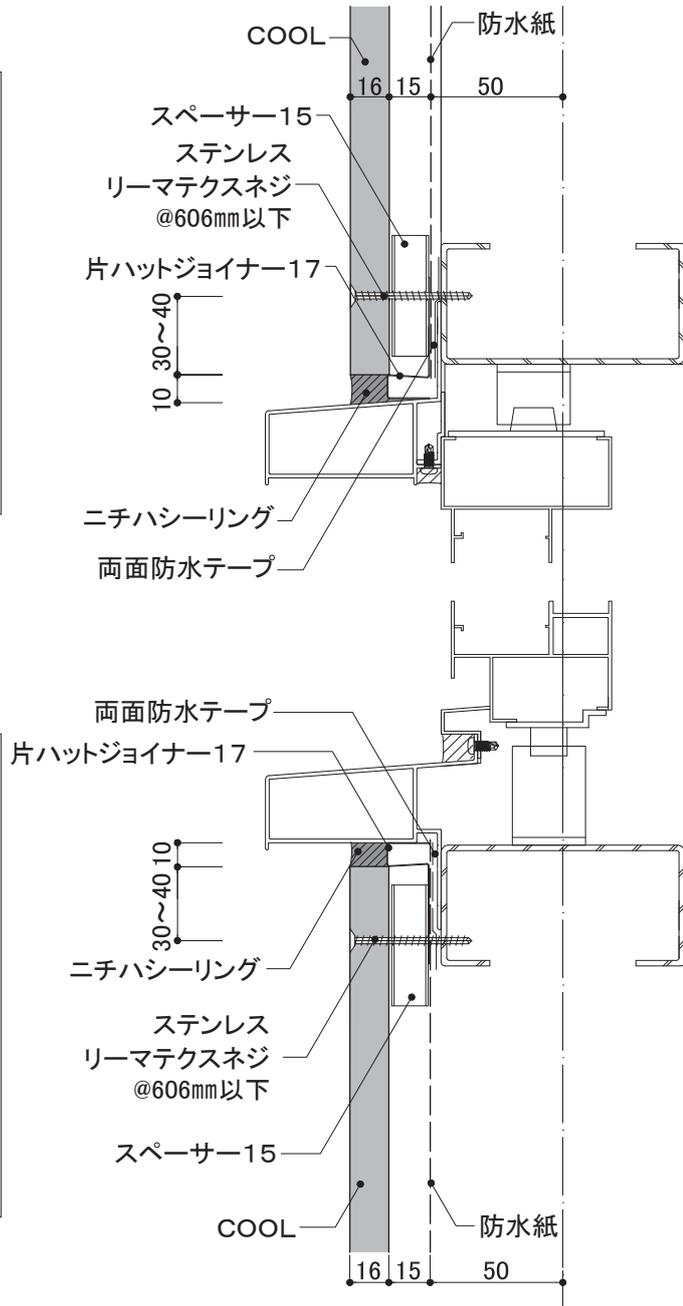
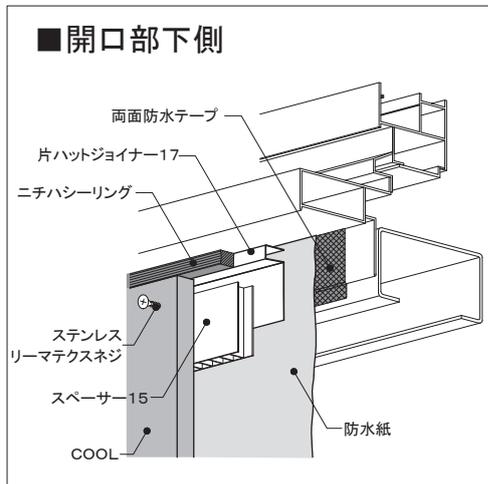
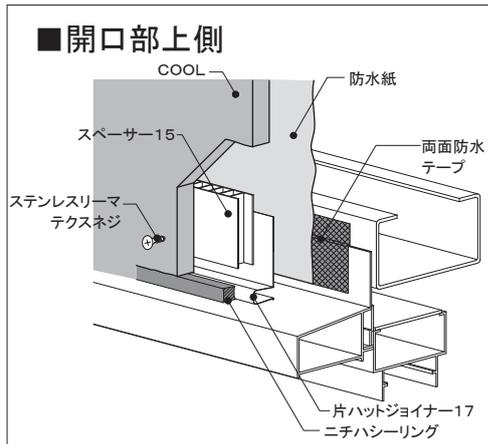
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。



開口部周囲 (内付け)

開口部上側

開口部下側



ビス頭

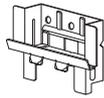
ミライア:ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP59施工留意点をご参照ください。
 ミライア、イルミオ:ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。
 ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。

サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

屋内側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

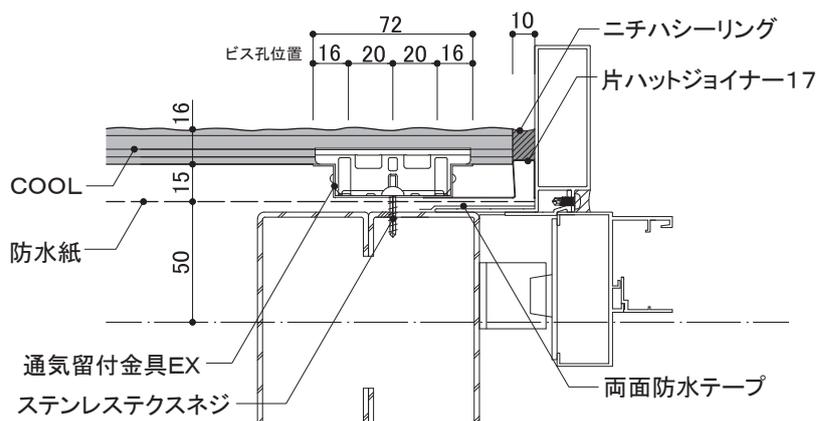
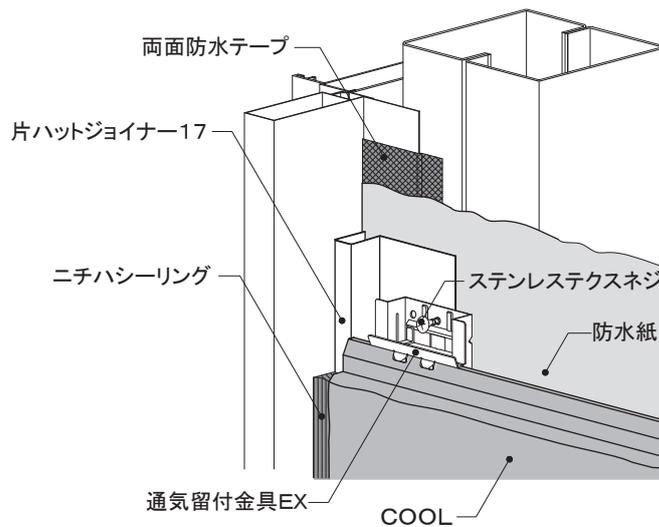
注: 片ハットジョイナーが転ぶ場合、必要に応じてスペーサー等を入れて施工します。



開口部周囲（内付け）

開口部左右

■開口部左右



サッシフィンの寸法を考慮し、必要に応じてC形鋼胴縁を追加してください。

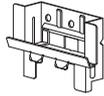
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨用外付けサッシを使用した場合の図面です。

サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

屋内側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

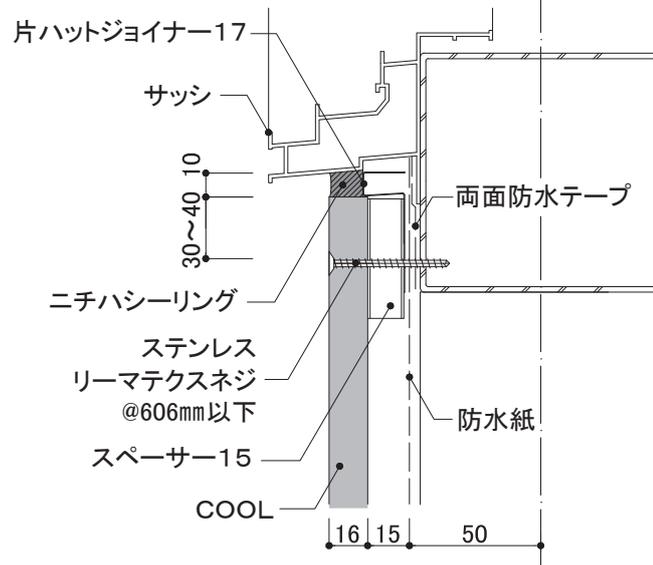
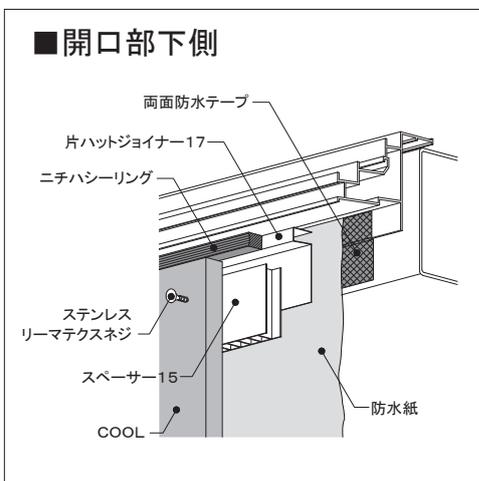
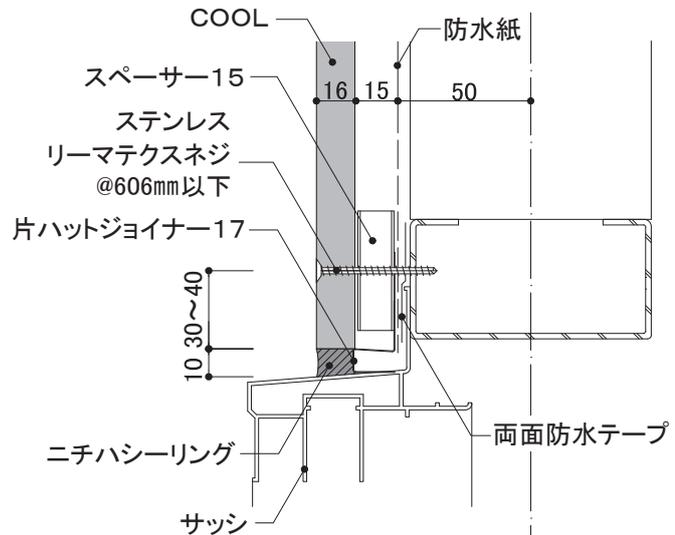
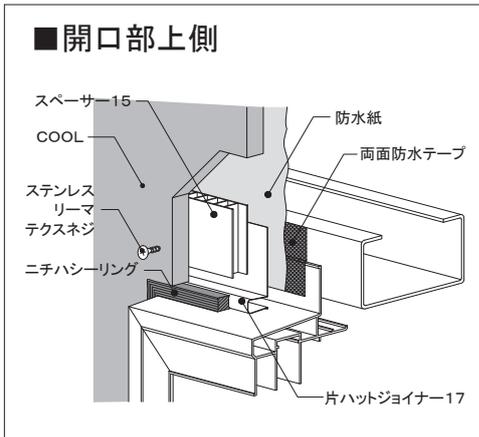
注: 片ハットジョイナーが転ぶ場合、必要に応じてスペーサー等を入れて施工します。



開口部周囲 (外付け)

開口部上側

開口部下側



ビス頭

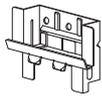
ミライア:ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP59施工留意点をご参照ください。
ミライア、イルミオ:ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨用外付けサッシを使用した場合の図面です。

サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

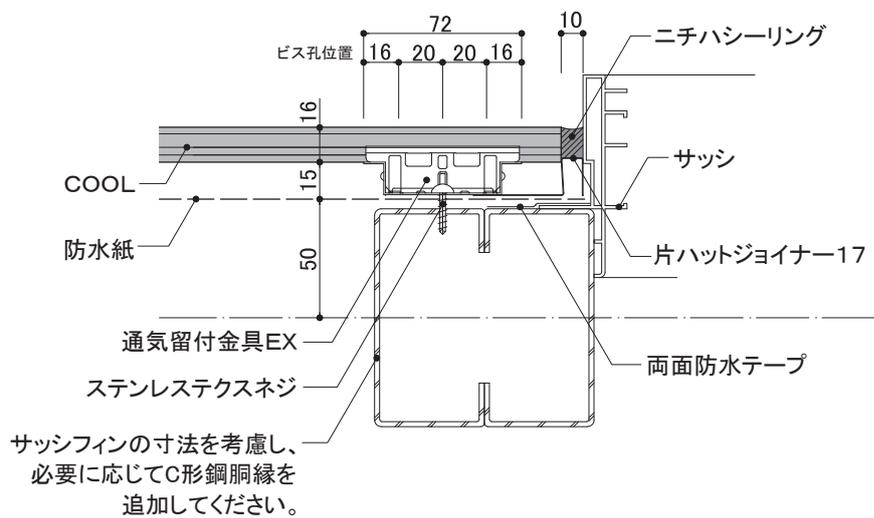
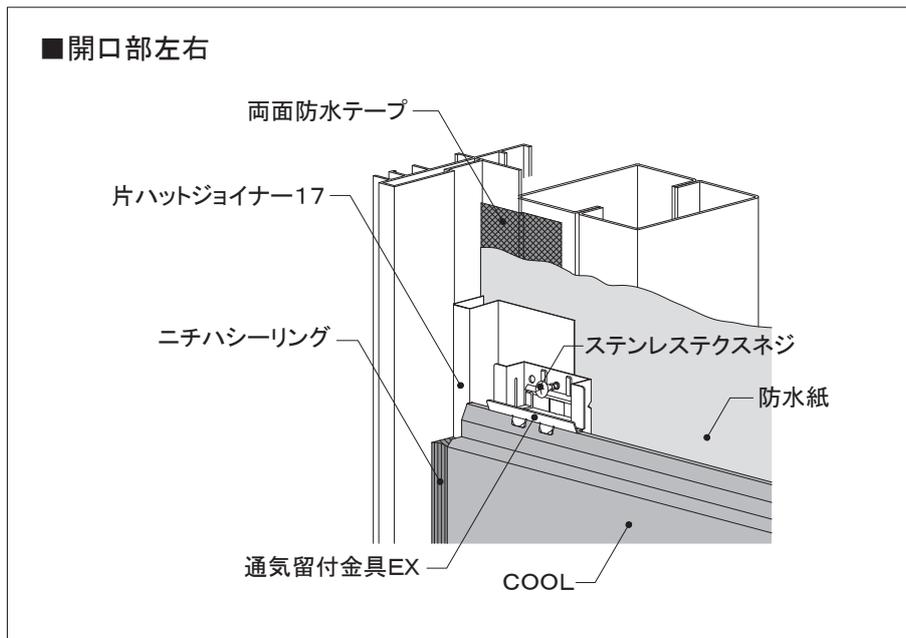
屋内側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

注: 片ハットジョイナーが転ぶ場合、必要に応じてスペーサー等を入れて施工します。



開口部周囲（外付け）

開口部左右



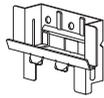
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨用外付けサッシを使用した場合の図面です。

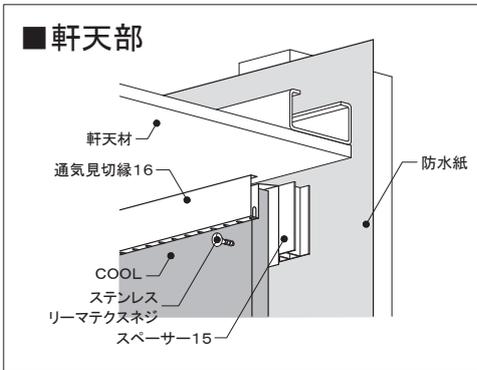
サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

屋内側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

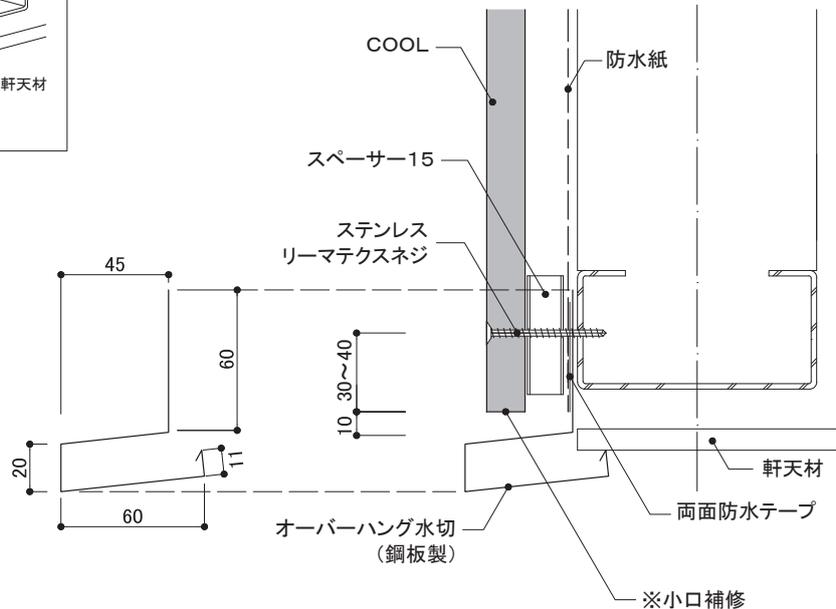
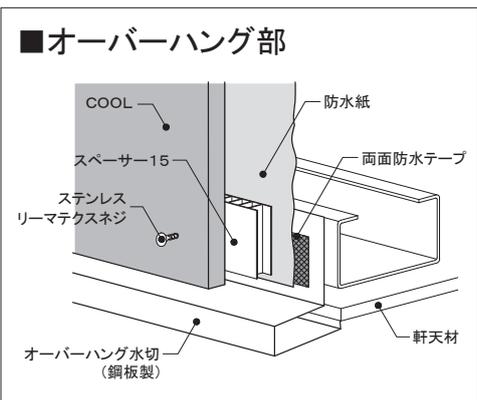
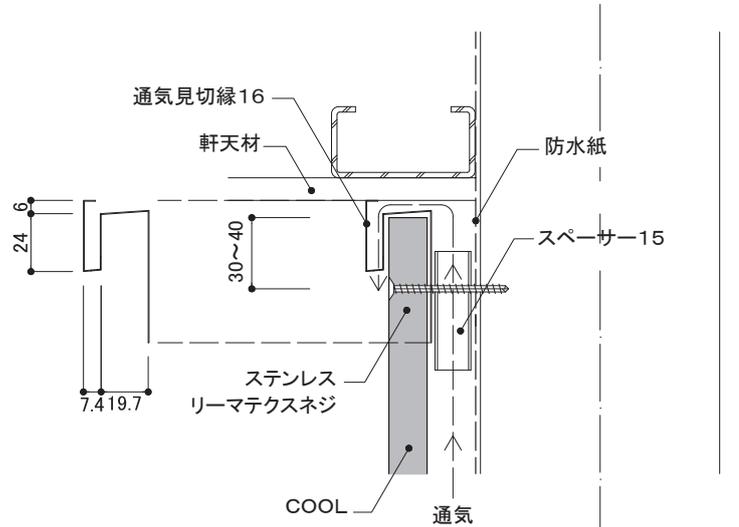
注: 片ハットジョイナーが転ぶ場合、必要に応じてスペーサー等を入れて施工します。



軒天部	通気見切縁16
オーバーハング部	オーバーハング水切(鋼板製)



COOL18mm厚み品は、通気見切縁21を使用します。



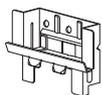
小口

COOL本体のシーリングをしない切断面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、見え掛り部分については小口専用補修塗料または専用補修液を塗布し、それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布してください。

注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

ビス頭

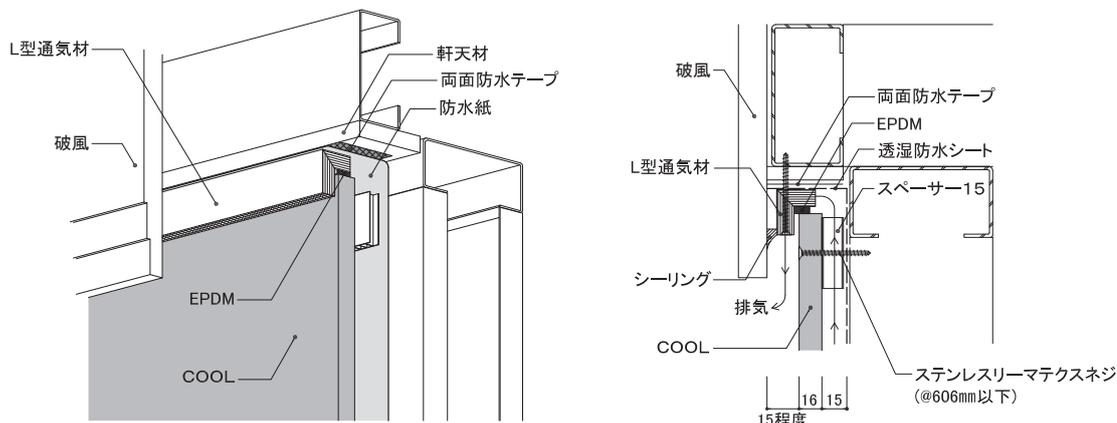
ミライア：ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP59施工留意点ご参照ください。
メモリア、イルミオ：ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。



破風・パラペット部(L型通気材を使用した場合)

■破風納まり例

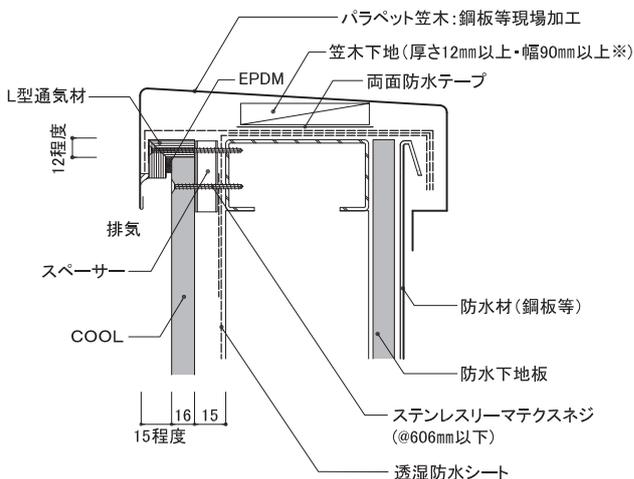
軒の出寸法が少ない破風やパラペット部分などは雨水浸入防止のため通気見切縁のかわりに、図のように、軒天換気部材:L型通気材を使用してください。



注意事項

- 防水紙の張り終わり部は両面防水テープを使用して、入念に止水処理をしてください。
- L型通気材は本体に付いている両面テープの剥離紙を剥がし、EPDMが付いている面を下向きにして、L型通気材を取り付けます。通気材はビスで本体に対し2本以上留め付けてください。
- 切妻屋根の妻面などの傾斜のある部分で使用する場合、COOL表面とL型通気材との隙間を10mm程度確保してください。隙間が狭すぎると、上手く施工できないおそれがあります。COOL施工後はL型通気材とCOOLの間の隙間をシーリング処理してください。

■パラペット納まり例



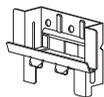
注意事項

- 既製アルミ笠木などは、笠木内部形状が一定でないため十分な止水処理が困難であり、被せ高さなども不足するため、施工不可となりますのでご注意ください。
- COOLのビス打ち下地のスペーサーは、通気を阻害しないように施工してください。
- COOLを施工する際、L型通気材を取り付けるために、COOL上端を通常より12mm程度下げて施工します。
- L型通気材に付いているEPDMはCOOLの表面に押しつけるように取り付け、L型通気材本体に対してビス2本以上留め付けてください。
- アルミの笠木を使用する際は、L型通気材厚み分、一般の笠木より大きめの物を選定してください。
※ 笠木下地は長さ2m以下ごとに30mm以上の隙間を設けます。

■その他の施工のポイント

- L型通気材の側面を完全に止水処理することが重要となります。
- L型通気材の連結部分は、両面防水テープ貼り、もしくはシーリング処理をしてください。
- L型通気材および破風(鼻隠し)など仕上げ材の留め付けは、胴縁または躯体に届くよう留め付けてください。

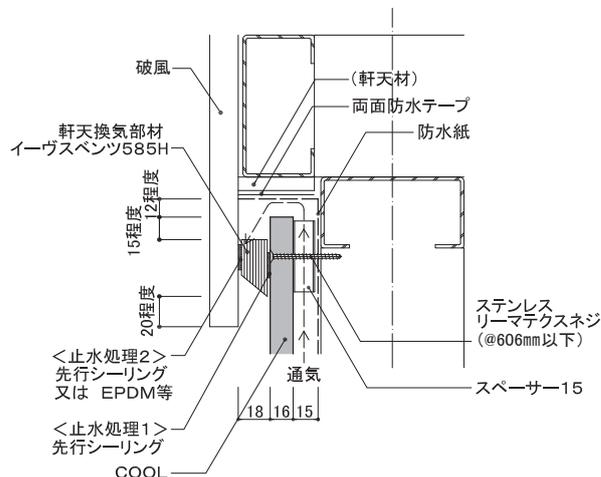
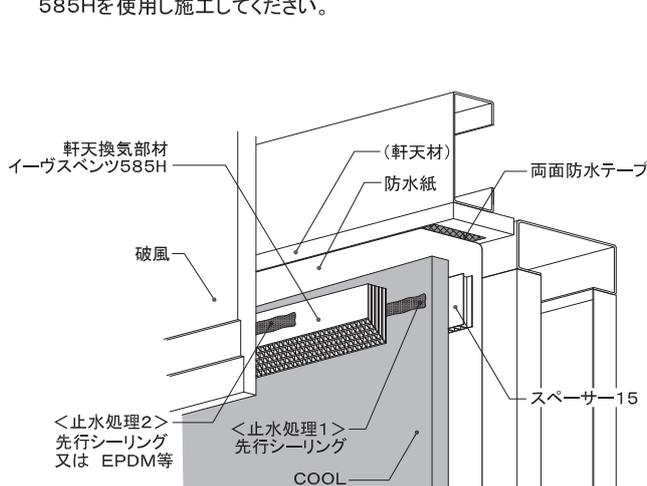
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を想定した図面としています。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。



破風・パラペット部(イーヴスベンツを使用した場合)

■破風納まり例

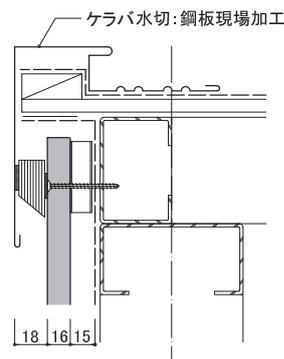
軒の出寸法が少ない破風やパラペット部分などは雨水浸入防止のため通気見切縁のかわりに、図のように、軒天換気部材: イーヴスベンツ585Hを使用し施工してください。



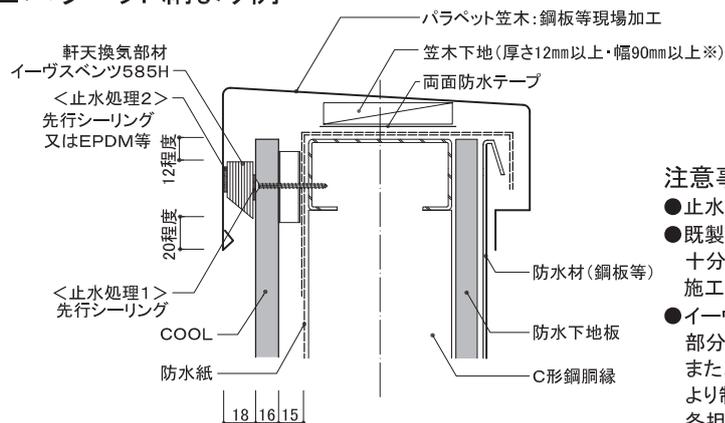
注意事項

- 軒天換気部材は片側が斜めにカットされておりますが、納まり上、部材の上下および表裏に制限はありません。
- 納まりの性質上、外壁工事が先行しますので工程手順に注意してください。
- <止水処理1>は、先行シーリングとください。
- <止水処理2>は、先行シーリングまたはEPDMなどし、空き寸法に合わせて隙間のないよう施工してください。

■ケラバ納まり例



■パラペット納まり例



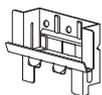
注意事項

- 止水処理に関しては、上記同様十分な止水処理を施してください。
- 既製アルミ笠木などは、笠木内部形状が一定でないため十分な止水処理が困難であり、被せ高さなども不足するため、施工不可となりますのでご注意ください。
- イーヴスベンツは、自治体によって延焼のおそれがある部分での使用が認められていない場合があります。また、地域により開口面積について、通気抵抗係数などにより制限される場合があります。各自治体の建築主事、各担当部局、および各金融支援機構窓口にご確認ください。併せて製造メーカー日本住環境株式会社へご相談ください。※笠木下地は長さ2m以下ごとに30mm以上の隙間を設けます。

■その他の施工のポイント

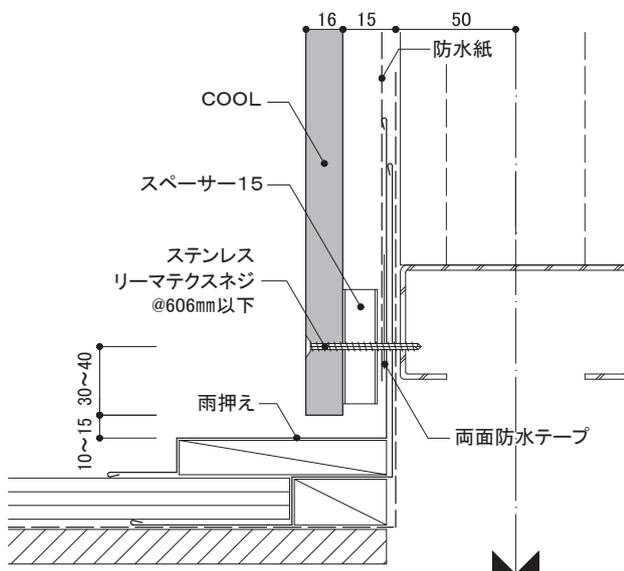
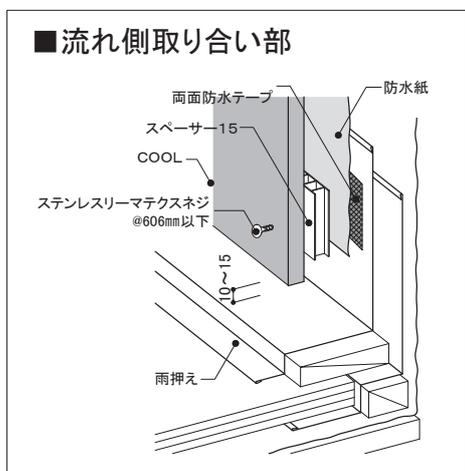
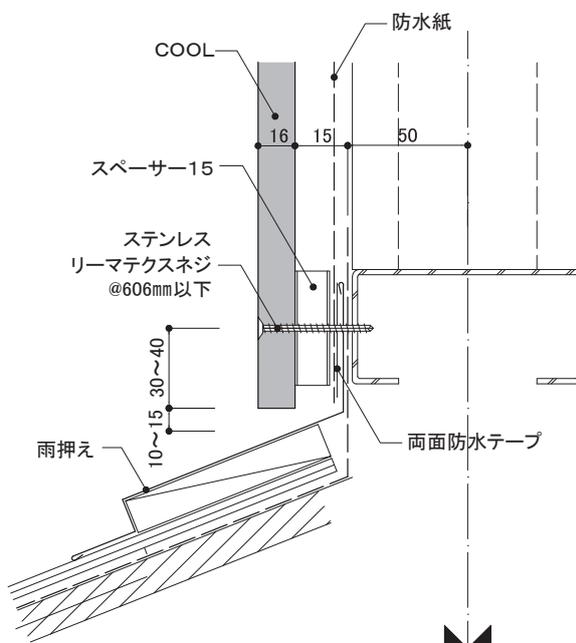
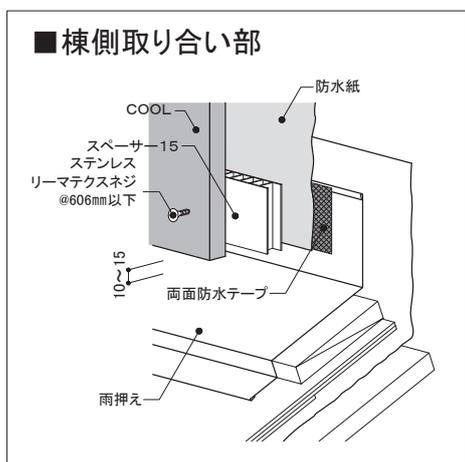
- イーヴスベンツの側面を完全に止水処理することが重要となります。
- イーヴスベンツの連結部分は、シーリング処理をしてください。
- イーヴスベンツおよび破風(鼻隠し)など仕上げ材の留め付けは、胴縁または躯体に届くよう留め付けてください。

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせて施工してください。



下屋根取り合い部

棟側取り合い部 流れ側取り合い部



小口

COOL本体のシーリングをしない切断面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、見え掛り部分については小口専用補修塗料または専用補修液を塗布し、それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布してください。

注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。
内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。

ビス頭

ミライア：ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP59施工留意点をご参照ください。

メモリア、イルミオ：ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。